

資料 1

全国的な学力調査に関する専門家会議（令和7年度第2回）
調査結果の取扱い検討ワーキンググループ（第5回）合同会議
2025年5月28日（水） 9:30-12:00

令和7年度全国学力・学習状況調査の実施について

1. 調査事項・日程

理科（小・中）は令和4年度以来の実施。

	調査事項	実施方式	日程
教科調査	(小) 国語・算数・理科 (中) 国語・数学	冊子による筆記方式	4/17（木）
	(中) 理科	オンライン (MEXCBT)	4/14（月）～4/17（木）
質問調査	(小) 児童質問 (生活習慣、学習環境等)	オンライン	4/18（金）～4/30（水）
	(中) 生徒質問 (")	オンライン (MEXCBT)	4/14（月）～4/17（木）
	学校質問 (指導方法、条件整備の状況等)	オンライン	4/1（火）～4/17（木）
後日実施	理科（中）・児童生徒質問は、 学校外（自宅、院内学級、 教育支援センター等）でオンライン実施可		4/18（金）～4/30（水） ※教科調査は集計外、質問調査は当日分 と合わせて集計

小6・中3（計約200万人）を対象に実施。

2. 令和7年度調査のポイント

① CBT調査の導入（中学校理科）

- ◆ 動画など教科特性に合わせた多様な出題・解答方法
- ◆ 入出力支援装置やアクセシビリティ機能の活用や拡大文字・ルビ振り問題の柔軟な利用
- ◆ 電子データでの問題配信・解答回収による負担軽減
- ◆ 自動採点の一部活用
- ◆ IRT分析の導入
 - ✓ 「分冊方式」の採用…出題や組合せの異なる複数の問題セットを生徒に割り当て、幅広い内容で調査
 - ✓ 学力の経年変化も把握（2回目以降）
 - ✓ 解かなかった問題にも予測正答率を提供

② 生徒質問でのランダム方式の試行

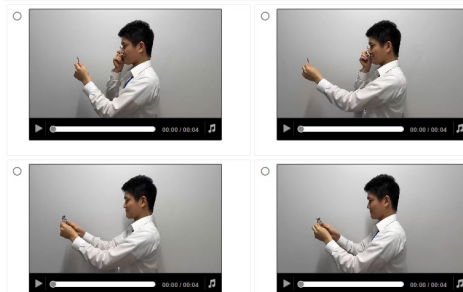
- ◆ PISA（構成内マトリックスサンプリング法）類似の手法をMEXCBTの機能を生かして試行
 - ✓ 同じカテゴリーの質問項目群から一部をランダムに質問
 - ✓ 生徒の回答負担を増やすことなく調査データを充実

③ 多様な生徒の状況把握

- ◆ 理科（中）・児童生徒質問は、学校外（自宅、院内学級、教育支援センター等）でオンライン後日実施も可能
 - ✓ 支援を要する生徒（長期欠席、特別支援学級等）の柔軟な参加を期待
 - ✓ 学校からの実績報告を踏まえ、実態を把握分析

サンプル問題例

問題の概要	ループを用いた異なる観察の方法の4つの動画を閲覧し、どの動画の方法で観察するのが適切かを選択する。
CBTで出題する意義	実際にループを使う様子を出題できるので、生徒が実際にループを使用するときの観察、実験の技能が身に付けているかどうかを問うことができる。（紙では、ループの使い方が文字情報で示されるだけなので、ループを正しく使用する力を身に付けていなくても文字列を丸暗記しているだけで正解できてしまう。）



動画をクリックして再生

長期欠席児童生徒に係る報告事項（イメージ）

- ・ 該当者の有無
- ・ 欠席の主な理由
- ・ 日頃学習している場所
- ・ 調査に参加した場所

2. 令和7年度調査のポイント（続き）

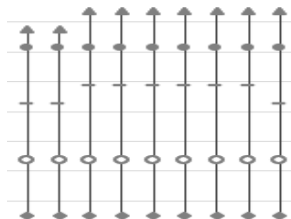
④結果公表の内容・スケジュールの改善

※「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善の方向性（素案）」（令和7年3月17日）により関係団体に意見照会中の内容。5月中に有識者会議で最終報告を取りまとめ予定。

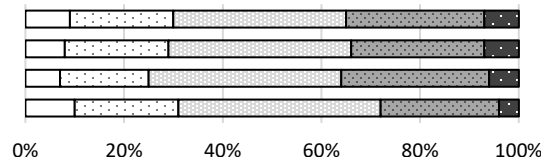
- ◆ 「平均正答率」一辺倒ではなく、「分布」を重視した分析、質問調査と組合わせた分析など、成果や課題の多面的な把握が可能な都道府県・指定都市別データを充実して公表

- ✓ 分布や習熟度を目配りした統計表やグラフ

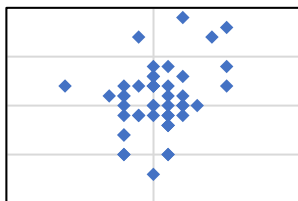
＜箱ひげ図＞



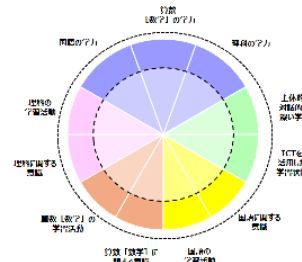
＜学力層・IRTバンドの分布＞



- ✓ 学力や質問調査結果の状況を示す散布図



- ✓ 都道府県・指定都市別結果チャート



- ◆ 現場の実態・要請を踏まえ、結果公表を3段階に

- ✓ 児童生徒の学びへの還元を最優先に、学校への結果返却時期を前倒し
- ✓ 各都道府県・指定都市の主体的な分析期間を確保した後に、都道府県・指定都市別結果を公表

7/14	公表①（正答率・IRTバンド分布などの全国平均） 学校向け帳票・個人票提供
7月末	公表②（全国データに基づく分析結果）
8月以降	公表③（都道府県・指定都市別データ）



国と都道府県・指定都市で協調して、短絡的に平均正答率ランキングを求める風潮を打破

3. CBT固有の課題への対応

① ネットワーク・端末のトラブル

技術的にネットワークや端末のトラブルをゼロにするのは困難

対応策

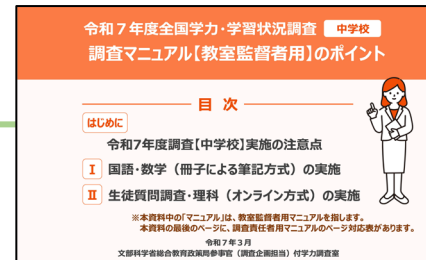
- ◆ 問題中の動画・アニメーションのデータサイズを極力小さくした（100～800KB程度）
- ◆ トラブル時の対処方針を周知徹底
 - ✓ その日のうちに再度問題を開けば、続きから再開可能（端末を交換しての実施も可）
 - ✓ 実施当日のトラブル解消が困難な場合でも、後日、別の問題プログラムでやり直すことも可能
- ◆ 緊急連絡体制を構築
 - ✓ コールセンターによる個別サポート、実施日ごとの緊急連絡体制の設定

② 教師・生徒の操作の習熟不足

MEXCBT・学習eポータル固有の操作がある

対応策

- ◆ サンプル問題により、CBT問題の配信方法（教師）、解答形式・操作方法（生徒）を事前に体験（1～3月）、調査当日にも操作練習の時間を確保
- ◆ 分かりやすい説明資料・動画を作成し、各教育委員会・学校に提供済
- ◆ 初めて「マニュアル説明会」を実施するとともに、教委・学校から質問をWebフォームで受付



③ 調査期間中の問題拡散

問題が事前に知れると、正確な学力の分析、経年変化の把握が困難となるおそれ

対応策

- ◆ 「分冊方式」の中で、1日のみ出題する問題を用意
- ◆ 各教育委員会・学校への注意喚起に加え、拡散防止を生徒に指導する手順をマニュアルで標準化

4. 学校単位での実施状況

*各学校から提出された「調査終了報告」に基づき、4月18日（金）12時時点の情報で集計

参加学校数（4月8日（火）時点）：9,632校
うち調査終了報告提出校数：9,110校（回収率94.6%）※有効回答のみ

（参考）中学校理科の実施日別の参加校総数

4月14日（月）	4月15日（火）	4月16日（水）	4月17日（木）	後日実施等
2,367校	2,372校	2,317校	2,543校	33校

調査実施日に 調査を実施、 完了した学校数	調査実施日に調査が完了せず、後日実施等を検討している学校数			合計
	CBT固有の事情により完了しなかった学校		その他	〔調査終了報告 提出校数〕
	ネットワーク・端末等の理由	実施準備面の理由		
9,033校 (99.15%)	19校 (0.21%)	26校 (0.29%)	32校 (0.35%)	9,110校 (100%)

* 4月30日までに後日実施をした解答は、採点、結果返却が可能

CBT固有の事情により調査が完了しなかった学校

◆ネットワーク・端末等の理由：19校

（例）学校ネットワークのサーバ故障／セキュリティソフトウェア等の意図しない影響で動画や画像が表示されない／一部の生徒について正しく表示されなかったためが学校全体で実施を見送った

◆実施準備面の理由：26校

（例）事前の問題配信がうまくいかなかった／実施指定日誤認

その他の理由により調査が完了しなかった学校

（例）遠足（旅行）／集団宿泊的行事（修学旅行等）／遠足以外の学校行事等／感染症等による影響（休校や学年閉鎖等）／対象児童生徒の体調不良、欠席等